

アプリケーション プログラミング イ ンターフェイス (API)

RoomOS 11.17 を実行する Cisco Collaboration デバイス用
(RoomOS 11.14 以降の新機能)

API コマンドの説明



2024 年 9 月

このドキュメントについて

このドキュメントには、Cisco RoomOS 11.17 の新しい API コマンドの説明が含まれています。

このドキュメントにリストされている API コマンド + Cisco RoomOS 11.14 API コマンドは、Cisco RoomOS 11.17 の API コマンドの完全な合計を構成します。

これは完全な API リファレンス ガイドではないことに注意してください。そのため、新しい API コマンドの説明以外の情報は含まれていません。

デバイスの使用方法に関するその他の情報については、最後に更新された通常の API リファレンス ガイドを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/roomos-1114/api-reference-guide-roomos-1114.pdf>

Cisco RoomOS デバイスの統合とカスタマイズに関する情報については、次を参照してください。
<https://roomos.cisco.com>

目次

このドキュメントについて.....	1
xCommand のコマンド	6
xCommand Conference Participant TransferRole	6
xCommand Conference SimultaneousInterpretation SelectLanguage	6
xCommand 会議同時通訳 SetMixer.....	7
xCommand Logging ExtendedLogging Start.....	7
xCommand Logging ExtendedLogging Stop.....	8
xCommand Logging SendLogs.....	8
xCommand Security Certificates CSR Create	9
xCommand Security Certificates CSR Link.....	9
xCommand UserInterface WebView Display	9
xCommand Video Input SetMainVideoSource.....	11
xCommand Video Layout StageParticipants Reset	12
xCommand Video Layout StageParticipants Set ById.....	12
xCommand Video Layout StageParticipants Set ByName	13
xCommand WebEngine AllowInsecureHttps Add	13
xCommand WebEngine AllowInsecureHttps List	14
xCommand WebEngine AllowInsecureHttps Remove.....	14
xCommand WebEngine AllowInsecureHttps RemoveAll.....	15
xCommand Whiteboard Email Cancel.....	15
xCommand Whiteboard Email Send	15
xCommand Zoom Join	16
x 設定コマンド.....	18
xConfiguration Audio Input Ethernet[1..3] Channel[1..8] Zone.....	18
xConfiguration Audio Input Microphone[13] Zone	18
xConfiguration Audio Input USBInterface[1] Zone	18
xConfiguration Audio Input USBMicrophone[1] Zone	19

xConfiguration Audio Microphones NearTalkerSector Mode	19
x 設定 音声マイク 音声アクティビティ検出モード	20
xConfiguration Audio Output Ethernet[14] Delay DelayMs	20
xConfiguration Audio Output Ethernet[14] Delay Mode	20
xConfiguration Bookings AdhocBooking BookingTimeout	20
xConfiguration Bookings AdhocBooking Enabled	21
xConfiguration Bookings AllowDecline	21
xConfiguration Bookings CheckIn Enabled	21
xConfiguration Bookings CheckIn WindowDuration	21
xConfiguration Cameras SpeakerTrack ZoomRange MaxZoomFactor	22
xConfiguration Files Services Webex Spaces	22
xConfiguration RTP Audio Ports Range Webex Start	22
xConfiguration RTP 音声ポート範囲 Webex 停止	23
xConfiguration RTP ポート範囲の開始	23
xConfiguration RTP Ports Range Stop	23
xConfiguration RTP ビデオポート範囲の開始	24
xConfiguration RTP Video Ports Range Stop	24
xConfiguration RTP Video Ports Range Webex Start	24
xConfiguration RTP Video Ports Range Webex Stop	24
xConfiguration RoomAnalytics RoomInUse InCall	25
xConfiguration RoomAnalytics RoomInUse LocalUsage	25
xConfiguration Sensors Radar Mode	26
xConfiguration Sensors Ultrasound Mode	26
xConfiguration SystemUnit Hardware USBC[1] Mode	26
xConfiguration UserInterface Features Call AudioMute	27
xConfiguration UserInterface LiveAnnotation Enabled	27
xConfiguration UserInterface Whiteboard Deletion	27
xConfiguration UserInterface Whiteboard ShareInCall	28
xConfiguration Video Input Connector[1] MaxResolution	28
xConfiguration Video Input Miracast Quality	29
xConfiguration WebEngine Certificates RevocationChecks NetworkAccess	29

xConfiguration Standby WakeupAtMeetingStart	30
xConfiguration Standby WakeupOnMotionDetection	30
xConfiguration Standby Control	30
xConfiguration Standby Delay	31
xConfiguration スタンバイーフウェイクモード	31
xConfiguration Standby Level Networked Delay	32
xConfiguraiton Standby Level Networked Mode	32
xConfiguration SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Url	33
xConfiguration SystemUnit ソフトウェアアップグレードプロバイダ	33
xConfiguration Webex ProvisionalActivationService	34
xStatus のコマンド	35
xStatus Audio Microphones VoiceActivityDetector Activity	35
xStatus Audio Output Connectors Ethernet[n] DelayMs	35
xStatus Conference Call[n] Capabilities AdmitFromLobby	35
xStatus Conference Call[n] Capabilities DTMF	35
xStatus Conference Call[n] Capabilities DisableReactions	36
xStatus Conference Call[n] Capabilities EnableReactions	36
xStatus Conference Call[n] Capabilities EndMeeting	37
xStatus Conference Call[n] Capabilities HardMute	37
xStatus Conference Call[n] Capabilities IsModerator	37
xStatus Conference Call[n] Capabilities LockControl	38
xStatus Conference Call[n] Capabilities LowerAllHands	38
xStatus Conference Call[n] Capabilities LowerParticipantsHand	38
xStatus Conference Call[n] Capabilities MuteAll	39
xStatus Conference Call[n] Capabilities MuteOnEntry	39
xStatus Conference Call[n] Capabilities ParticipantRequestUnmute	40
xStatus Conference Call[n] Capabilities RaiseHand	40
xStatus Conference Call[n] Capabilities Reactions	40
xStatus Conference Call[n] Capabilities Recording Pause	41
xStatus Conference Call[n] Capabilities Recording Resume	41
xStatus Conference Call[n] Capabilities Recording Stop	42

xStatus Conference Call[n] Capabilities TransferHostAndLeave	42
xStatus Conference Call[n] Capabilities UnmuteAll	42
xStatus Conference Call[n] HardMuted	43
xStatus Conference Call[n] Locked	43
xStatus Conference Call[n] RaiseHand	43
xStatus 電話会議 [n] 同時通訳 言語 [n] 言語コード	44
xStatus Conference Call[n] SimultaneousInterpretation Languages[n] LanguageName ...	44
xStatus Logging ExtendedLogging Mode.....	45
xStatus Logging ExtendedLogging PacketDump	45
xStatus Logging ExtendedLogging RenderingDump.....	45
xStatus MicrosoftTeams Software Version Authenticator.....	46
xStatus MicrosoftTeams Software Version MicrosoftIntune	46
xStatus MicrosoftTeams Software VersionCode Authenticator	46
xStatus MicrosoftTeams Software VersionCode MicrosoftIntune	46
xStatus MicrosoftTeams Software Version OEMAgent.....	47
xStatus Network[n] IEEE8021X 理由	47
xStatus ネットワーク [n] IEEE8021X ステータス	47
xStatus センサー レーダー モード	47
xStatus スタンバイレベル	47
xStatus スタンバイ状態.....	48
Status UserInterface RemoteAccess Session[n] Name	48
Status UserInterface RemoteAccess Session[n] State	48
Status UserInterface WebView[n] ErrorDescription.....	49
Status UserInterface WebView[n] ErrorType	49
Status UserInterface WebView[n] HttpStatusCode.....	49
Status UserInterface Features Call AudioMute	49
xStatus Video Input Connector [n] SignalState	49

xCommand のコマンド

xCommand Conference Participant TransferRole

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

ミーティング参加者には、主催者、共同主催者、ゲスト、プレゼンタ、パネリストなど、ミーティングでのロールが割り当てられます。自分が主催者または共同主催者である場合、通話またはミーティングの他の参加者のロールを転送できます。

このコマンドは、Webex クラウドサービスに登録されている、または エクスペリエンスの最適化が有効になっているデバイス用 Webex Edge にリンクされているデバイスでのみサポートされています。

CallId：通話の一意的識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

ParticipantId：通話の参加者の一意的識別子です。通話中に参加者の ParticipantIds を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行できます。

ParticipantRole：ParticipantId パラメータで識別される参加者に割り当てる新しいロール。または、参加者から取り消すロールを 1 つ入力します。State パラメータを参照してください。

State：True：指定された参加者ロールを選択した参加者に割り当てます。

False：指定された参加者ロールを選択した参加者から取り消します。

xCommand Conference SimultaneousInterpretation SelectLanguage

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

同時通訳により、Webex ミーティングの参加者同士が、好みの言語でミーティングを聞くことができます。使用可能な言語は、ミーティングの主催者が指定し、ミーティングのセットアップ時に選択されます。

CallId: 整数 (0.65534)

- 通話の一意的識別子。

言語コード: 整数 (0.65534)

- デバイスで再生する言語のコードを選択します。現在選択されている言語名と言語コードは、Conference Call[n] SimultaneousInterpretation Languages[n] LanguageCode と Language Name のステータスで確認できます。

xCommand 会議同時通訳 SetMixer

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

同時通訳を使用している場合に、元の言語とは別の言語を再生する場合、元の言語をミックスして、元のプレゼンタの声をバックグラウンドで聞くことができます。

CallId: 整数<0 - 65534>

- 通話の一意的識別子。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

レベル: 整数<0 - 100>

- ミックスに加える元の言語の量 (%) を選択します。0 は選択した言語のみが聞こえることを意味し、100 は元の言語のみが聞こえることを意味し、20 は組み合わせの中に 20% 元の言語と 80% 選択された言語があることを意味します。

xCommand Logging ExtendedLogging Start

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

指定された期間、継続的な拡張ログの実行を開始します。

期間

<1 - 600>

拡張ロギングを実行する時間の長さ (秒) を指定します。

パケットダンプ

Full、FullRotate、Limited、None デフォルト：None

パケットデータのログを有効または無効にします。これらは別々の .pcap ファイルに保存されます。フル: すべてのデータを 3 分間ログします。FullRotate: 1 時間のすべてのデータをログ記録しますが、PacketDumpRotateSize で指定されたサイズ制限があります。制限付き: 制限されたデータセットをログに記録します。これには、メディアファイルが送信される RTP ポート範囲からのデータは含まれません。なし: パケットデータをログしません。

PacketDumpRotateSize

標準、大

パケットダンプログファイルのローテーションサイズを指定します。ファイルがこのサイズに達すると、ファイルは閉じられ、新しいファイルでログが継続されます。2 個の最新のログファイルより古いファイルは、削除されます。

PacketDumpRotateSize は FullRotate と一緒にのみ指定することができ、デフォルトで Normal になります。Large : 大きなファイルサイズ (150 MB) を有効にします。Normal : 標準のファイルサイズ (12 MB) を有効にします。

レンダリングダンプ

Limited、None デフォルト : None

制限付きレンダリング ダンプを有効または無効にします。レンダリングダンプには、画面にレンダリングを引き起こす変更が含まれます。出力は osd.log に書き込まれ、UI のどの要素がレンダリングの原因となったかを示す形式になっています。1 秒単位で書き込まれます。Limited : レンダリングのダンプ出力を有効にします。なし : レンダリングダンプログは更新されません。

xCommand Logging ExtendedLogging Stop

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

拡張ロギング プロセスの実行を停止します。

RemovePacketDump

False、True デフォルト : False

パケットダンプログファイルを削除するか保持するかを入力します。True : パケットダンプログファイルを自動的に削除します。False : パケットダンプログファイルを削除しません。

RemoveRenderingDump

False、True デフォルト : False

レンダリング ダンプ ログ ファイルを削除するか保持するかを入力します。True : レンダリング ダンプ ログ ファイルを自動的に削除します。False : レンダリング ダンプ ログ ファイルを削除しません。

xCommand Logging SendLogs

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

ログを Webex クラウドに送信します。これらのログは、デバイスの問題を診断し、修正するのに役立ちます。このコマンドはログ ID を返します。管理者または TAC エンジニアは、この ID を使用してログを識別し、ダウンロードできます。コマンドが機能するには、デバイスが Webex クラウド サービスに登録されているか、またはオンプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

さらに、デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスでは、xConfiguration Logging CloudUpload Mode が On に設定されている必要があります。

xCommand Security Certificates CSR Create

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: Admin

新しく作成された 2048 ビット RSA キーペアを使用して、証明書の署名リクエストを作成します。リクエストで使用されるサブジェクト名は、コマンドパラメータから決定されます。出力は PKC#10 形式の PEM エンコードされたリクエストです。

CommonName : 文字列 (0、128)

- リクエストの CN/CommonName に使用される値。

OrganizationName : 文字列 (0、128)

- リクエストの O/Organization の値に使用される値。

CountryName : 文字列 (0、128)

- リクエストの C/Country 値に使用される値。

xCommand Security Certificates CSR Link

適用対象：すべての製品

ユーザ ロール: 管理者

このコマンドは、入力から PEM エンコード X.509 証明書を読み取り、それ自体の行で「.」によって終了します。提供された証明書を、対応する [セキュリティ証明書 CSR 作成] コマンドで以前に作成された秘密鍵にリンクします。一度に 1 つの CSR だけをアクティブにできます。

xCommand UserInterface WebView Display

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: 管理者、インテグレータ、ユーザ

ウェブビューを開き、URL で指定されたウェブページを表示します。 使用法:

xCommand UserInterface WebView Display

[AllowInsecureHttps :

“AllowInsecureHttps”] [Header: “Header”] [Mode: Mode] [Options: “Options”]

[Target: “Target”] [Title: “Title”] [Url: “Url”]

値は次のとおりです。

AllowInsecureHttps:

False/True

このコマンドで AllowInsecureHttps が True に設定されていて、さらに主催者が許可リスト (WebEngine AllowInsecureHttps Add コマンドを参照) に追加されている場合にのみ、ウェブページが正確に表示されます。

ヘッダー:

文字列 (0, 8192)

HTTP ヘッダー フィールドです。1つのコマンドに最大で 15 個のヘッダーパラメータを追加でき、それぞれが 1 つの HTTP ヘッダーフィールドを保持します。

モード:

フルスクリーン/モーダル

全画面表示: ウェブページを画面全体に表示します。

モーダル: ウィンドウ内にウェブページを表示します。

オプション:

文字列 (0, 255)

このパラメータは、UI 拡張エディタによる内部使用を意図しています。

ターゲット: コントローラ/OSD/PersistentWebApp コントローラ: Cisco 内部使用のみ。

OSD: 端末の画面に表示されているウェブビューを閉じます。

PersistentWebApp : Cisco 内部使用のみ。

件名:

文字列 (0, 255)

ウェブページのタイトルです。

URL:

文字列 (0, 2000)

ウェブページの URL です。

xCommand Video Input SetMainVideoSource

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: 管理者、インテグレータ、ユーザ

AirPlay

Miracast

どの入力ソースをメインビデオソースにするかを設定します。入力ソースは、接続されている物理的なコネクタ (ConnectorId) または論理ソース識別子 (SourceId) のいずれかによって識別できます。AirPlay または Miracast 経由で入力されるコンテンツもメインビデオソースとして選択できます。

このコマンドにワイヤレスソースが含まれるようになりました。ビデオソースは、単一のソースまたは以下のソースの組み合わせで設定できます。

xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId:Miracast SourceId: AirPlay SourceId: 2 これにより、入力ソースが単一の出力ビデオストリームに混合されます。

コネクタ ID

<1 - 3>

コネクタの識別子 (ID) です。コネクタ [n] の ID は n です。ID を見つけるために、次の API コマンド xStatus Video Input Connector を実行します。

レイアウト

Equal、PIP、Prominent

メインビデオソースが複数の入力ソースで構成されている場合に、メインビデオソースのレイアウトを設定します。Equal：入力ソースは同じサイズの画像で表示されます。画面には最大で 4 つの画像を表示できます。PIP：入力ソースの 1 つをピクチャーインピクチャーとして表示します (2 つの入力ソースを合成する場合にのみ利用できます)。Prominent：最初の入力ソースが大きな画像で表示され、次の入力ソースが小さな画像で下に表示されます。

PIPPosition

LowerLeft、LowerRight、UpperLeft、UpperRight

メインビデオソースが複数の入力ソースで構成されている場合、メインビデオソースの PIP の位置を選択します。

PIP サイズ

自動、大

メインビデオソースが複数の入力ソースで構成されている場合、メインビデオソースの PIP サイズを選択します。

ソース ID

LiteralArray

入力ソースの識別子 (ID) です。入力ソース [n] の ID は n です。ID を見つけるために、次の API コマンド `xStatus Video Input Source` を実行します。

xCommand Video Layout StageParticipants Reset

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

このコマンドを使用すると、デフォルトのレイアウトの動作に戻ります。つまり、参加者はステージに移動しません。ステージへの移動機能の詳細については、`Video Layout StageParticipants Set ById` コマンドを参照してください。

xCommand Video Layout StageParticipants Set ById

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

(メモ: この機能は、RoomOS 11.17 および 11.18 では提供されていません。)

Webex ミーティングの最中に、参加者をステージに移動することができます。つまり、画面上のレイアウトではフレームとして常に表示されます。ユーザが選択した (または自動的に選択された) レイアウトで利用可能なフレームの中で最も大きいフレーム内に配置されます。ローカルデバイス上でのみ参加者を移動することに注意してください。他の参加者の画面には影響しません。

最大 4 人の参加者をステージ上に移動できます。1 人の参加者が移動できない場合、操作全体が失敗し、状態の変化は表示されません。ミーティングにまだ参加していない参加者がステージに移動した場合、ミーティングに参加した時点で変更が適用されます。

`ParticipantId` を識別子として使用してステージに配置する参加者を識別する場合、このコマンドを使用します。参加者名を使用する場合は、代わりに `Video Layout StageParticipants Set ByName` コマンドを使用します。

通話の参加者の `ParticipantId` を確認するには、`xCommand Conference ParticipantList Search` を実行できます。参加者のリストをスキャンし、「`ParticipantId`」のサブフィールドを使用します。

`CallId` (オプション) : 整数 (0 ~ 65534)

- `CallId` は、マルチポイントコールの際に、遠端デバイスを識別するために使用される場合があります。`xCommand Dial` コマンドを発行すると、`CallId` が返されます。通話に参加しているデバイスの 1 つから `xStatus Call` を実行することで、通話中に `callId` を取得できます。

ParticipantId : 文字列 (1, 255)

- 1つのコマンドで最大4つの participantId パラメータを追加できます。このため、最大で4人の参加者をステージに移動できます。

xCommand Video Layout StageParticipants Set ByName

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

Webex ミーティングの最中に、参加者をステージに移動することができます。この機能の詳細については、Video Layout StageParticipants Set ById コマンドを参照してください。

Webex の (??) 表示名を識別子として使用してステージに載せる参加者を識別するには、このコマンドを使用します。名前の一部を入力すると、デバイスは部分文字列一致に基づいて参加者の名前解決を試みます。

1人の参加者が解決できない場合、操作全体が失敗し、観察可能な状態の変更はありません。

CallId (オプション): 整数 (0..65534)

- CallId は、マルチポイント コールの際に、遠端デバイスを識別するために使用される場合があります。xCommand Dial コマンドを発行すると、CallId が返されます。通話に参加しているデバイスの1つから xStatus Call を実行することで、通話中に callId を取得できます。

ParticipantId : 文字列 (1, 255)

- 最大4つの participantId パラメータを追加できます。そのため、最大4人の参加者をステージに移動できます。

xCommand WebEngine AllowInsecureHttps Add

適用: すべての製品

必要なユーザーロール: Admin

パーソナルモードのデバイスの Webex Devices Cloud xAPI サービスでは利用できません。

必要なユーザーロール: 管理者

デフォルトでは、ウェブエンジンは自己署名 HTTPS 証明書を持つ主催者からロードされたウェブコンテンツを許可しません。

ただし、特定の主催者に対しては、何らかの理由でこれを許可する場合があります。これは、新しい Web ベースサービスの開発およびテスト段階であり、適切な証明書のないテストサーバーで統合がテストされている、またはサービスへの安全ではない HTTPS 接続が許容されると考えられている社内で展開されたアプライアンスサービスでテストされている場合があります。

このコマンドを使用して、これらの特定のサービスの完全修飾 DNS 名または IP アドレスを「AllowInsecureHttps」リストに追加することで、コーデックが自己署名 HTTPS 証明書を使用するデバイスでもこれらのサイトの使用を許可することができます。

ホストが非セキュア HTTP アクセス許可の許可リストに載っている場合でも、ウェブページを正しく表示するために、UserInterface WebView Display コマンドで AllowInsecureHttps パラメータを True に設定する必要があります。

Cisco は、すべての実稼働展開で署名付き証明書を使用することを推奨します。

使用法:

xCommand WebEngine AllowInsecureHttps Add Hostname: "Hostname"

値は次のとおりです。

Hostname :

文字列 (0、200)

ウェブサイトの URL またはホスト名。

xCommand WebEngine AllowInsecureHttps List

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: Admin

パーソナルモードのデバイスの Webex Devices Cloud xAPI サービスでは利用できません。

必要なユーザロール: ADMIN

安全ではない HTTPS アクセス許可リスト上のすべてのウェブサイトを一覧表示します。詳細については、WebEngine AllowInsecureHttps Add コマンドを参照してください。

使用方法 :

xCommand WebEngine AllowInsecureHttps List

xCommand WebEngine AllowInsecureHttps Remove

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: Admin

パーソナルモードのデバイスの Webex Devices Cloud xAPI サービスでは利用できません。

必要なユーザロール: ADMIN

安全ではない HTTPS アクセスホワイトリストからウェブサイトを削除します。詳細については、WebEngine AllowInsecureHttps Add コマンドを参照してください。

使用法:

xCommand WebEngine AllowInsecureHttps Remove Id: ld

値は次のとおりです。

ld :

整数 (0.65534)

リスト中のエントリに対する一意の識別子です。WebEngine AllowInsecureHttps Access List コマンドを使って識別子を見つけます。これらの識別子は、リストに要素が追加されたり、リストから削除されたりすると再定義されます。

xCommand WebEngine AllowInsecureHttps RemoveAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザロール: Admin

パーソナルモードのデバイスの Webex Devices Cloud xAPI サービスでは利用できません。

必要なユーザロール: ADMIN

安全ではない HTTPS アクセス許可リストをクリアします。使用法:

xCommand WebEngine AllowInsecureHttps RemoveAll

xCommand Whiteboard Email Cancel

適用対象: Board シリーズ、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQ、Room Kit Mini、Codec Pro

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

進行中のメールへの送信操作をキャンセルする。

xCommand Whiteboard Email Send

適用対象: Board シリーズ、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit EQ、Room Kit Mini、Codec Pro

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ローカルで設定された SMTP サーバーを使用して、ホワイトボードを PDF 添付ファイルとしてリストの電子メールアドレスに送信します。コマンドに少なくとも 1 つの BoardUrl/AttachmentFileNames のペアを含める必要があります。いくつかのペアを追加することで、1 つのメールに複数のホワイトボードを添付することができます。

SMTP サーバを使用するためのデバイスのセットアップ方法を見つけるには、ネットワークサービス SMTP 設定を参照してください。

添付ファイル名

<0 - 254>

メールに添付するホワイトボードのファイル名です。ファイル名の最後は「.pdf」でなければなりません。複数のホワイトボードを添付する場合は、ファイルごとに 1 つずつ、同じコマンドで複数の AttachmentFileNames パラメータを追加する必要があります。AttachmentFileNames と BoardUrls の数は同じである必要があります、各ファイル名は同じ順序で URL に対応します。

BoardUrls

<0 - 254>

PDF ファイルとしてメールに添付されるホワイトボード。ホワイトボードは URL で識別されます。URL は Conference Presentation Whiteboard BoardUrl ステータスで確認できます。複数のホワイトボードを添付する場合、同じコマンドで複数の BoardUrls パラメータを各ホワイトボードに 1 つずつ追加する必要があります。

本文 (Body)

必須<0 - 65536>

送信するメールの本文です。

受信者

<0 - 254>

メールの送信先となるメールアドレスのリスト。受信者を少なくとも 1 人追加する必要があります。同じコマンドに複数の受信者を追加でき、その場合は各受信者ごとに 1 つの Recipient パラメータを追加します。

件名

必須<0 - 128>

送信するメールの件名です。

xCommand Zoom Join

適用対象：すべての製品

パーソナルモードのデバイスの Webex Devices Cloud xAPI サービスでは利用できません。

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、ユーザー

このコマンドは、コマンドのパラメータ中の情報と、ズーム DefaultDomain およびズーム DialStringOptions 設定に基づいて、ズーム ダイアル文字列を構築します。参加するズームミーティングは、ズームが提供する MeetingID または BookingID で識別されます。これらのパラメータの 1 つを含めることが必須です。BookingID を使用している場合、デバイスはブッキングから参加情報を取得します。参加情報にパスコードが含まれている場合、パスコードが MeetingPasscode パラメータではない場合のみ、

それがダイヤル文字列に追加されます。ドメインは常に参加情報に含まれるため、[ズームの DefaultDomain] 設定は無視されます。参加情報から取得した URI が <meetingid>@<domain> 以外の形式の場合、ズーム DialStringOptions 設定は無視されます。MeetingID を使用する場合、ドメインとダイヤル文字列のオプションは、常に Zoom DefaultDomain および Zoom DialStringOptions 設定から取得されます。ズームのダイヤル文字列の形式についての詳細は、「<https://support.zoom.us/hc/en-us/articles/202405539-SIP-H-323-Room-Connector-Dial-Strings>」を参照してください。

BookingID

<0 - 255>

ブッキングの一意の識別子です。Bookings List コマンドによって返される ID です。

DialCode

<0 - 255>

ドメイン

<0 - 255>

HostKey

<0 - 255>

ミーティングに主催者として参加するために必要なキー。

ミーティング ID

<0 - 255>

ズームミーティングのミーティング番号。通常はカレンダーの招待状またはミーティングのリンクで提供されます。

MeetingPasscode

<0 - 255>

ミーティングのパスコード。通常、カレンダーの招待またはミーティング リンクで提供されます。

トラッキング データ

<0 - 255> デフォルト : ZoomJoin_command

通話履歴に保存されるタグまたはラベル。

x 設定コマンド

xConfiguration Audio Input Ethernet[1..3] Channel[1..8] Zone

適用対象: Board Pro 55、Board Pro 75、Codeq EQ、Room Bar Pro

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

このコマンドはプレゼンタと対象者の会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ（プレゼンタ）側に向くか、対象者側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、およびハイブリッドのプレゼンタモード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

各インターネット イーサネット チャネルは、それぞれのゾーン設定を持つ必要があることに注意してください。

値スペース: 整数 (13)

- 1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。
- 2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。
- 3: マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

xConfiguration Audio Input Microphone[13] Zone

適用対象: Board Pro 55、Board Pro 75、Codeq EQ、Room Bar Pro

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

このコマンドはプレゼンタと聴衆者の会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ（プレゼンタ）側に向くか、オーディエンス側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、およびハイブリッドのプレゼンタモード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

値スペース: 整数 (13)

- 1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。
- 2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。
- 3: マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

xConfiguration Audio Input USBInterface[1] Zone

適用対象: Board Pro 55、Board Pro 75、Codeq EQ、Room Bar Pro

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このコマンドはプレゼンタと対象者の会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ (プレゼンタ) 側に向くか、オーディエンス側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、およびハイブリッドのプレゼンタモード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

値スペース: 整数 (13)

- 1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。
- 2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。
- 3: マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

xConfiguration Audio Input USBMicrophone[1] Zone

適用対象: Board Pro 55、Board Pro 75、Codeq EQ、Room Bar Pro

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

このコマンドはプレゼンタと対象者の会議室のセットアップに使用されます。これは主に機能をセットアップするときに、Control Hub から使用されます。セットアップ中に、マイクがステージ (プレゼンタ) 側に向くか、対象者側に向くかの情報を追加することをお勧めします。この情報により、ローカル、リモート、およびハイブリッドのプレゼンタモード間でのより正確な自動切り替えが可能になります。

値スペース: 整数 (13)

- 1: マイクの方向が使用されていない場合、この値を使用します。
- 2: マイクがステージ エリアに向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。
- 3: マイクが聴衆の方を向くようにセットアップされている場合は、この値を使用します。

xConfiguration Audio Microphones NearTalkerSector Mode

適用対象: Room Bar Pro、Board Pro 55、Board Pro 75

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

デバイスの内部マイクアレイは、2つの主要な部分で構成されています。

デバイスから約 1.5m までをカバーする近くの話者セクター、そしてデバイスから約 4m までをカバーする 3つのビームです。

この設定は、近くの話者セクターの有効化と使用に関するものです。

値スペース: オフ (Bar Pro 既定) / オン (既定、Board Pro および Board Pro G2)

Off : 近くの話者セクターは無効になります。そのため、会議室からの最終音声ミックスを作成するときに、このセクションからの音声は含まれません。

On : 近くの話者セクターは利用可能です。これは、会議室の最終的な音声ミックスを作成する際に、このセクションでピックアップされた音声が含まれる (考慮される) 可能性があるという意味です。次の条件が満たされた場合に限りです。

近くの話者セクターで人々が検出される（頭部検出に基づく）、そしてデバイスの近くに立っている人々から音声拾われる。

x 設定 音声マイク 音声アクティビティ検出モード

適用対象：すべての製品

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

デバイスは、ピックアップされた音声信号が音声なのか、あるいは単に周囲のノイズや他の音声なのかを検出することができます。 音声拾われたかどうかは、Audio Microphones VoiceActivityDetector Activity ステータスで報告されます。これは、ミーティング中のエリアなどで音声検出されたかどうかをマクロで報告する場合に便利です。

値の範囲：Off/On

Off：拾った音声信号が声なのか、他のタイプのサウンドなのかを確認しません。

On：ピックアップした音声信号が声かどうかを確認し、対応するステータスで報告します。

xConfiguration Audio Output Ethernet[14] Delay DelayMs

対象製品：Codec Pro、Room 70 Dual、Room 70 Panorama、Room 70 Single G2、Room Panorama

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

xConfiguration Audio Output Ethernet[14] Delay Mode

対象製品：Codec Pro、Room 70 Dual、Room 70 Panorama、Room 70 Single G2、Room Panorama

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ

xConfiguration Bookings AdhocBooking BookingTimeout

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール: Admin

臨時ブッキングの場合、バックエンドからの確認が完了するまで一定時間待つ必要があります。この設定は、ブッキングの確認の取得にかかるハイブリッド カレンダーの場合に便利です。予約は、アドホックを予約するときに表示されますが、

バックエンド（Exchange、Google カレンダーなど）が時間内に確認しない場合は削除される場合があります。この設定はそれが削除されるまでの待機時間を指定します。

整数 (60..300)

- バックエンドからの確認がない場合、アドホックブッキングを削除するまでの待機秒数。

xConfiguration Bookings AdhocBooking Enabled

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

xConfiguration Bookings AllowDecline

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

ミーティングを拒否できるかどうか、および拒否できる場所を設定します。カレンダー リストのドロップダウンを使用して削除するか、[チェックアウト] ボタンから削除します。例：室内のコントローラーから、または会議室の外の壁に貼られたスケジューラから、またはその能力がない場合。

- すべて: 会議室の内外の両方のナビゲータからのミーティングを拒否することができます。
- InsideOnly: 会議室内のナビゲータからのミーティングを拒否することができます。
- None : ナビゲータからミーティングを拒否することはできません（コントローラもスケジューラも）。

xConfiguration Bookings CheckIn Enabled

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

xConfiguration Bookings CheckIn WindowDuration

適用対象：すべての製品 必要なユーザーロール：管理者 値の範囲：5、10、15、20、30、60

デフォルト値: 10

xConfiguration Cameras SpeakerTrack ZoomRange MaxZoomFactor

適用先: Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro、Room 55 Dual、Room 70 Dual、Room 70 Dual G2、Room 70 Panorama、Room 70 Single、Room 70 Single G2、Room Panorama、Board Pro 55、Board Pro 75、Room 55、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit、Room Kit Mini

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー 値の範囲：2x、3x、4x、5x、Auto デフォルト値：Auto

xConfiguration Files Services Webex Spaces

適用対象：すべての製品

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレーター

(Webex が最適化済み)

このトグルは、新規または既存の Webex スペースに保存するためのオプションを、ホワイトボードのワークフローの保存でユーザーが利用できるようにするかをコントロールします。

値の範囲：Disabled/Enabled

デフォルト値：Enabled

xConfiguration NetworkServices SSH KeyExchangeAlgorithms AllowLegacy

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者値スペース:オフ/オン デフォルト値: オン

xConfiguration RTP Audio Ports Range Webex Start

適用対象：すべての製品 必要なユーザーロール：管理者 値の範囲：<1024 - 65454>

デフォルト値: 52050

xConfiguration RTP 音声ポート範囲 Webex 停止

適用対象：すべての製品 必要なユーザーロール：管理者 値の範囲：<1121 - 65535>

デフォルト値: 52099

xConfiguration RTP ポート範囲の開始

適用: すべての製品

必要なユーザーロール: Admin

RTP ポートの範囲で最初のポートを定義します。デバイスは、RTP および RTCP メディア データの [RTP ポート範囲の開始] と [停止] の設定で定義された範囲内のポートを使用しています。[RTP ビデオポート範囲] が無効な場合の最小範囲は 100、[RTP ビデオポート範囲] が有効な場合の最小範囲は 20 です。[RTP ビデオポート範囲] が有効な場合、音声には [RTP ポート範囲] 設定で定義された範囲が使用され、他のメディア データには [RTP ビデオポート範囲] 設定で定義された範囲が使用されます。2つの範囲が重複してはいけません。設定の変更は新しい通話に対して有効になります。Webex クラウドに登録されると、デバイスは別のデフォルト RTP ポート範囲、つまり 52050 (開始) から 52099 (停止) を使用することに注意してください。

値の範囲：<1024 - 65438>

デフォルト値: 2326

xConfiguration RTP Ports Range Stop

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

RTP ポート範囲の最後のポートを定義します。デバイスは、RTP および RTCP メディア データの [RTP ポート範囲の開始] と [停止] の設定で定義された範囲内のポートを使用しています。RTP ビデオポート範囲が有効な場合、デバイスは 1024 から 65436 の範囲のポートを使用します。RTP ビデオポート範囲が無効な場合の最小範囲は 100、RTP ビデオポート範囲が有効な場合の最小範囲は 20 です。[RTP ビデオポート範囲] が有効な場合、音声には [RTP ポート範囲] 設定で定義された範囲が使用され、他のメディア データには [RTP ビデオポート範囲] 設定で定義された範囲が使用されます。2つの範囲が重複してはいけません。設定の変更は新しい通話に対して有効になります。Webex クラウドに登録されると、デバイスは別のデフォルト RTP ポート範囲、つまり 52050 (開始) から 52099 (停止) を使用することに注意してください。

値スペース: <1121 - 65535>

デフォルト値: 2487

xConfiguration RTP ビデオポート範囲の開始

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: Admin

RTP ビデオポートの範囲で最初のポートを定義します。開始値と終了値の両方が 0 に設定されている場合、[RTP ビデオポート範囲] は無効になります。これを有効にするには、最初のポートに 1024 ~ 65454 の範囲の値を、最後のポートに 1024 ~ 65535 の値を設定します。最小値は 80 です。RTP ビデオポート範囲が有効になっている場合、音声では RTP ポート範囲で定義された範囲が使用されます。設定、および他のメディアデータは、RTP ビデオポート範囲設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲が重複してはいけません。設定の変更は新しい通話に対して有効になります。Webex クラウドに登録されると、デバイスは別のデフォルト RTP ビデオポート範囲、つまり 52200 (開始) から 52299 (停止) を使用することに注意してください。

値スペース: <0 - 65454>

デフォルト値: 0

xConfiguration RTP Video Ports Range Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: Admin

RTP ビデオポート範囲の最後のポートを定義します。開始値と終了値の両方が 0 に設定されている場合、[RTP ビデオポート範囲] は無効になります。これを有効にするには、最初のポートに 1024 ~ 65454 の範囲の値を、最後のポートに 1024 ~ 65535 の値を設定します。最小値は 80 です。RTP ビデオポート範囲が有効になっている場合、音声では RTP ポート範囲で定義された範囲が使用されます。設定、および他のメディアデータは、RTP ビデオポート範囲設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重複できません。設定の変更は新しい通話に対して有効になります。Webex クラウドに登録されると、デバイスは別のデフォルト RTP ビデオポート範囲、つまり 52200 (開始) から 52299 (停止) を使用することに注意してください。

値の範囲: <0 - 65535>

デフォルト値: 0

xConfiguration RTP Video Ports Range Webex Start

適用先: すべての製品 必要なユーザーロール: 管理者値スペース: <1024 - 65454>

デフォルト値: 52200

xConfiguration RTP Video Ports Range Webex Stop

適用先: すべての製品 必要なユーザーロール: 管理者値スペース: <1121 - 65535>

デフォルト値: 52299

xConfiguration RoomAnalytics RoomInUse InCall

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この設定は、壁に取り付けられたナビゲーター（スケジューラモード）で LED を赤にする目的で会議室を「使用中」としてマークし、さらに RoomAnalytics RoomInUse ステータスで報告するかどうかを判断するのに役立ちます。

RoomAnalytics RoomInUse LocalUsage 設定も参照してください。 値の範囲：Disabled/Enabled

デフォルト値：Enabled

- Disabled：ナビゲータが通話にペアリングされているデバイスであるという理由だけで、会議室は「使用中」としてマークされません。
- Enabled：ナビゲータがペアリングされているデバイスが通話の中で [???] の場合、会議室は「使用中」としてマークされます（任意のタイプ）。

xConfiguration RoomAnalytics RoomInUse LocalUsage

適用：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者

この設定は、壁に取り付けられたナビゲーター（スケジューラモード）で LED を赤にする目的で会議室を「使用中」としてマークし、さらに RoomAnalytics RoomInUse ステータスで報告するかどうかを判断するのに役立ちます。

RoomAnalytics RoomInUse InCall 設定も参照してください。 値の範囲：Disabled/Enabled

デフォルト値：Enabled

- Disabled：誰かがホワイトボードアプリを使用しているという理由だけで、

またはナビゲータが [???] にペアリングされているデバイスでコンテンツをローカルに共有するという理由だけで、会議室は「使用中」としてマークされません。 .

• *Enabled* : ナビゲータがペアリングされているデバイスで誰かがホワイトボード アプリを使用しているか、コンテンツをローカルに共有している場合、会議室は「使用中」とマークされます。

xConfiguration Sensors Radar Mode

適用対象 : Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2

必要なユーザーロール : 管理者

このデバイスは、レーダ信号を送信し、近くの障害物からの反射を受信する可能性があります。デバイスはこれらの信号を使用して、室内に人や動きがあるかどうかを検出できます。レーダ信号は、デバイスから 5 メートル以上離れている人を検出しません。

値の範囲 : Auto/Off

デフォルト値 : Auto

Auto : デバイスがディスプレイオフモードまたはネットワークスタンバイの場合、デバイスはレーダ一信号を使用して動きを検出します。

オフ: レーダー センサーがオフになり、デバイスはレーダー信号を送信しません。

xConfiguration Sensors Ultrasound Mode

適用対象 : すべての製品

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

値スペース : Auto、オフ

デフォルト値: 自動

xConfiguration SystemUnit Hardware USBC[1] Mode

適用先: Desk、Desk Mini、Codec EQ、Room Bar、Room Bar Pro

必要なユーザーロール : 管理者

新しい USB 3.0 バージョンにも対応している場合でも、USB-C ポートで USB2.0 プロトコルのみを使用するようにデバイスに指示する場合は、この設定を使用します。

一部のラップトップでは、私たちのデバイスをウェブカメラとして使用する際に必要になる場合があります。

Valuespace: USB2、USB3

デフォルト値: USB3

設定を有効にするには、デバイスを再起動する必要があります。

- USB2: USB ネゴシエーションには USB 2.0 のみを提供します。
- USB3 : 標準 USB ネゴシエーションを提供します。つまり、利用可能な場合は USB3.0 を使用し、利用できない場合は USB 2.0 を使用します。

xConfiguration UserInterface Features Call AudioMute

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレーター、タッチユーザー 値の範囲 : Auto/Hidden

デフォルト値 : Auto

xConfiguration UserInterface LiveAnnotation Enabled

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、インテグレーター

ライブ注釈機能を使用すると、ユーザーは、コンテンツ共有のフローを中断することなく、通話中または通話外でも画面共有に対して注釈を付けることができます。この機能は、タッチスクリーンがある場合にのみ適用されます。他のユーザーが共有しているホワイトボードの共同注釈は、Webex (統合型) ミーティング、Webex クラウドサービスに登録されている、またはデバイスが Webex Edge にリンクされているデバイスでのみ利用できます。

この設定を使用して、コンテンツへのライブ注釈を許可するかどうかを決定します。

値空間: False/True

デフォルト値 : False

- False: ライブ注釈を作成できません。フローティングツールバーの注釈ボタンには、[コンテンツにポイントして注釈を付ける (コンテンツをポイントして注釈を付ける)] オプションがありません。[スクリーンショットに注釈を付ける] オプションは、この設定による影響を受けません。
- True: ライブ注釈を作成できます。フローティングツールバーの注釈ボタンをタップして開始し、[コンテンツをポイントして注釈を付ける (Point and annotate on content)] オプションを選択します。

xConfiguration UserInterface Whiteboard Deletion

適用: すべての製品

必要なユーザーの役割: 管理者、インテグレーター

ホワイトボード アプリとファイル アプリの両方で、ユーザ インターフェイスからホワイトボードを削除するオプションを非表示にするかどうかを選択します。これにより、ホワイトボードの削除が無効になるわけではありません。xAPI (xCommand Files Delete) は引き続き使用できます。ボタンが UI から削除されるだけです。

値スペース: 自動/非表示 デフォルト値: 自動

- 自動: ユーザインターフェイス上に削除ボタンを表示します。
- 非表示: ユーザ インターフェイスから削除ボタンを削除します。

xConfiguration UserInterface Whiteboard ShareInCall

適用対象: すべての製品

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

ユーザ インターフェイス (通話アプリおよびホワイトボード アプリ) からの通話で、既存のホワイトボードを共有するオプションを非表示にするかどうかを選択します。これは、別のデバイスからの通話でホワイトボードが共有されるのを防ぎませんし、API からの通話でホワイトボードの共有を無効にしません。

値スペース: 自動/非表示 デフォルト値: 自動

- Auto : UI に [共有 (Share)] ボタン (通話中の共有オプション) を表示します。
- Hidden : UI から [共有 (Share)] ボタン (通話中の共有オプション) を削除します。そのため、UI から通話中にホワイトボードを共有するオプションを削除します。

xConfiguration Video Input Connector[1] MaxResolution

適用対象: Codec Pro、Room 70 G2、Room Panorama、Room 70 Panorama、Room 70 Dual G2、Room 70 Single G2、Codec EQ、Codec Plus、Room 55 Dual、Room 70 Dual、Room 70 Single

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ入力の優先最大解像度を設定します。この入力で共有されるすべてのコンテンツの解像度とフレームレート、またはそれ以下になります。最大解像度を設定することで、不必要なアップスケールを避け、意図した通りの解像度を達成することができます。

たとえば、4K をサポートするビデオ入力では、優先解像度を制限して、自動的に 4K にアップスケーリングされないようにすることができます。

Valuespace: 1920_1080_60

既定値: [1]: 1920_1080_60; [2]: 1920_1080_60; [3]: 3840_2160_30; [4]: 1920_1080_60; [5]: 3840_2160_30; [6]: 1920_1080_60; [7]: 3840_2160_30; [8]: 1920_1080_60; [9]: 3840_2160_30; [10]: 1920_1080_60; [11]: 3840_2160_30; [12]: 1920_1080_60; [13]: 3840_2160_30;

xConfiguration Video Input Miracast Quality

適用対象：すべての製品

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

ビデオをエンコードして送信する場合、高解像度と高フレームレートの間のトレードオフがあります。コンテンツによっては、高解像度よりも高フレームレートの伝送の方が重要な場合や、その逆の場合があります。高フレームレートを優先するか、高解像度を優先するかを指定します。また、この設定はローカルで共有されているコンテンツには影響しません。遠端に送信する信号にのみ影響します。

値スペース: 自動/モーション/シャープネス デフォルト値: 自動

- Auto : 開始点として自動が鮮明度に設定されます、ビデオストリームはそれに従ってエンコードされます。デバイスは受信ビデオ ストリームを継続的に分析し、モーションが検出されると、モーションのエンコードに自動的に変更します。
- モーション: 可能な最高のフレームレートを提供します。 より高いフレームレートが必要な場合、一般的には画像に動きがある場合に使用します。
- Sharpness : 可能な最高の解像度を提供します。 詳細画像とグラフィックの最高品質が必要な場合に使用します。

xConfiguration WebEngine Certificates RevocationChecks NetworkAccess

適用対象：すべての製品

必要なユーザロール: Admin

証明書失効の確認中にネットワークアクセスを許可するか拒否するかを決定します。値スペース:許可/拒否デフォルト値: 許可

Allow : 許可されている場合、固定応答がない場合、コーデックは OCSP/CRL サーバーに証明書が失効しているかどうかを 問い合わせることができます

Deny : 拒否されている場合、固定 OCSP 応答の失効のみがチェックされます。

xConfiguration Standby WakeupAtMeetingStart

適用: すべての製品

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

ミーティングの開始がスケジュールされたときに、デバイスを自動的に復帰させるかどうかを選択します。誰もミーティングに参加しない、またはデバイスと対話しない場合、ハーフウェイクモードになり、スケジュールされた開始の数分後にスタンバイします。

値スペース: 自動/オフ

自動: スケジュールされたミーティングの開始前に、デバイスが起動します。オフ: ミーティングの開始がスケジュールされている場合でも、デバイスはスタンバイ状態のままになります。

既定値: 自動

xConfiguration Standby WakeupOnMotionDetection

適用対象: Board Series、Desk、Desk Mini、Desk Pro、Room 55、Room 55 Dual、Room 70 Dual G2、Room 70 Panorama、Room 70 Single、Room 70 Single G2、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit、Room Kit Mini、Room Panorama、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

モーション検出による起動が On の場合、ユーザーが入室すると、デバイスがスリープ状態から解除され、ハーフウェイクモードに切り替わります。この機能は超音波検出に基づいており、一部の製品ではレーダー（スタンバイモードの Board Pro および Board Pro G2）にも基づいています。

音声超音波の最大音量と近接モードの設定は、モーション検知に影響を与えません。値の範囲: Off/On

Off: モーションを検出しても、デバイスはスタンバイから復帰しません。

On: 動きを検出する（ユーザが会議室に入室するなど）と、デバイスは自動的にスタンバイ状態から復帰します。

デフォルト値:

• On [CodecPlus、CodecPro を除くすべての製品]、オフ [CodecPlus、CodecPro、Codec EQ、Room Kit EQX]

xConfiguration Standby Control

適用対象: すべての製品

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

デバイスを自動的にスタンバイモードにするかどうかを定義します。ですが、常に UI から、または Standby Activate コマンドを使用して、デバイスをスタンバイモードに手動で設定できます。Valuespace: オン [RoomPanorama/Room70Panorama]; オフ/オン [その他の製品]

オフ: デバイスは自動的にスタンバイモードになりません。

オン: スタンバイの遅延時間がタイムアウトすると、デバイスはスタンバイモードになります。

既定値: オン

xConfiguration Standby Delay

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスが非アクティブ状態になってからスタンバイモードになるまでの時間を指定します。スタンバイコントロールをオンにする必要があります。

値の範囲: 整数 <1 - 480> 分単位のスタンバイ遅延時間。

デフォルト値: 4 [Board BoardPro BoardProG2]、10 [その他の製品]

xConfiguration スタンバイハーフウェイクモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: Admin

デバイスがスタンバイ状態になる前に自動的にハーフウェイクモードに入るかどうか、またはハーフウェイクモードをスキップして直接スタンバイ状態にするかどうかを決定します。ハーフウェイクモードでは、画面が黒くなってテキストが表示されたり、ウェブページやデジタル看板などのブランディング情報が表示されたりする場合があります。

[スタンバイコントロール] 設定で有効になっている場合、[スタンバイのハーフウェイクモード] の設定に関係なく、デバイスは、非アクティブ状態が x 分間続くとスタンバイ状態になります。x は [スタンバイ遅延] 設定で定義されます。

Valuespace: 自動/手動

自動: デバイスは、非アクティブ状態が 2 分間続くと、ハーフウェイクモードに切り替わります。動作を検知、または またはスタンバイモードになるまで、ハーフウェイクモードの状態のままです。

Manual: 自動ハーフウェイクモードが無効になります。xCommand Standby Halfwake でのみ手動でトリガーできます。

既定値: 自動

xConfiguration Standby Level Networked Delay

適用対象: Board Pro 55、Board Pro 75、Room Bar Pro、Desk、Desk Mini

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

ネットワークスタンバイに移行する前に、デバイスがオフディスプレイスタンバイモードにある必要がある時間を定義します。

遅延が0に設定されている場合、デバイスはハーフウェイクモードから、数秒間のディスプレイオフモードへ、そしてネットワークスタンバイに移動します。

デフォルト値: 2

値スペース: 整数<0 - 1440>

ネットワークスタンバイレベルの遅延時間 (分)。

xConfiguraition Standby Level Networked Mode

適用対象: Board Pro 55、Board Pro 75、Room Bar Pro、デスク、Desk Mini

必要なユーザの役割: 管理者、インテグレータ

ディスプレイオフからネットワークスタンバイモードへの自動移行を無効または有効にします。ネットワークスタンバイモードは、より深いレベルのスタンバイであり、通常のディスプレイオフスタンバイモードよりも消費電力をさらに削減します。

デバイスは、スタンバイレベルのネットワーク遅延設定で定義されているとおり、オフディスプレイスタンバイモードの状態がx分間続いた後、ネットワークスタンバイ状態になります。

スタンバイモードが自動的に開始されるように、Standby Control 設定がオンにセットされている必要があります。ただし、[スタンバイ アクティベート] コマンドを使用して手動でトリガーすることもできます。

既定値: オン

値スペース: オフ/オン

On: ネットワークスタンバイレベルの時間が経過すると、デバイスはネットワークスタンバイになります。

オフ: デバイスはネットワークスタンバイモードになりません。

xConfiguration SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Url

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール: Admin、TouchUser

HTTP ウェブキャッシュに使用する URL は、Webex からのソフトウェアアップグレードをキャッシュするために使用できます。xxx ウェブキャッシュモードが「手動」の場合にのみ使用されます。

xConfiguration SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Mode

手動に設定すると、デバイスは XXX ウェブキャッシュ URL で指定されたウェブキャッシュを通してソフトウェアアップグレードをダウンロードします。キャッシュが機能していない場合、デバイスは通常のネットワーク接続に切り替えます。

xConfiguration SystemUnit ソフトウェアアップグレードプロバイダ

適用対象：Board Pro 55、Board Pro 75、Desk Pro、その他、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 Dual G2、Room 70 Single G2、Room Bar、Room Bar Pro

必要なユーザーロール: Admin

デバイスに Microsoft Teams Room があり、Cisco バックエンド サービス (Webex や CUCM など) にも登録されている場合、どのサービスから自動ソフトウェアアップグレードを入手するかを決定できます。RoomOS ソフトウェアはこの設定に従いますが、Microsoft Teams アプリケーションは Teams 管理センターからいつでもアップグレードできることに注意してください。

Valuespace: Cisco, Microsoft デフォルト値: Cisco

- Microsoft: Microsoft からソフトウェアを入手します。
- Cisco : Cisco サービスからソフトウェアを入手します。

xConfiguration Webex DevicePersonalization Features Whiteboard サインインが必要

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

追加のプライバシーとセキュリティ対策として、ホワイトボードの使用はユーザのログインを要求するように設定できます。ユーザがログインしていない場合、ホワイトボード アプリを開くと、ユーザは QR コードを使用してログインするように指示されます。また、ホワイトボード機能を終了するときにも、サインアウトするように促されます。

値の範囲 : False/True デフォルト値 : False

- False : ユーザーはログインせずにホワイトボード機能を使用できます。
- True : ユーザーがホワイトボード機能を使用するにはログインが必要です。

xConfiguration UserInterface RoomScheduler DevicePersonalization QR コード ペアリング

適用対象 : すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者

ホットデスクングが有効になっているデバイスにナビゲーター (会議室スケジューラ モード、会議室外) をペアリングする場合、QR コードを表示して、ユーザが壁のパネル上の外から会議室を予約できるようにすることができます。

- On : QR コードは会議室の外のナビゲータに表示されません。
- Off : QR コードは会議室の外のナビゲーターに表示され、人々が外部から会議室を予約できるようになります。

xConfiguration Webex ProvisionalActivationService

適用対象 :

必要なユーザーロール :

この設定は、ログを提供するためにデバイスが Webex バックエンドと通信できるようにするために使用されます。今後の自動オンボーディングの使用例にも対応します。

xStatus のコマンド

xStatus Audio Microphones VoiceActivityDetector Activity

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

このステータスは、Audio Microphones VoiceActivityDetector Mode 設定で音声アクティビティの検出がオンになっている場合にのみ返されます。その後、ステータスは、拾った音声信号が音声なのか、それともバックグラウンドノイズやその他の音声なのかをレポートします。

値の範囲：False/True

False：音声は現在検出されていません。 True：音声は現在検出されています。

xStatus Audio Output Connectors Ethernet[n] DelayMs

適用対象：Board Pro 55、Board Pro 75、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 Dual G2、Room 70 Panorama、Room 70 Single G2、Room Bar Pro、Room Panorama

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、ユーザー

xStatus Conference Call[n] Capabilities AdmitFromLobby

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。

現在ミーティングロビーで待機している参加者を許可できるかどうかを示します。返される結果の値スペース：利用可能/利用不可

利用可能: 現在ミーティングロビーで待機している参加者を入室させることができます。 Unavailable：現在ミーティングロビーで待機している参加者を入室させることができません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities DTMF

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

このステータスは、Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング内で DTMF トーンを送信できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

利用可能/利用不可

利用可能: ミーティング中に DTMF トーンを送信できます。 利用できません: ミーティング中に DTMF トーンを送信することはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities DisableReactions

適用: すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング内でリアクションを無効にできるかどうかを示します。

返される結果の値スペース： Available/Unavailable

利用可能: ミーティング中にリアクションを無効にできます。 利用できません: ミーティング中にリアクションを無効にすることはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities EnableReactions

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング内でリアクションを有効にできるかどうかを示します。

返される結果の値スペース： Available/Unavailable

利用可能: ミーティング内でリアクションを有効にできます。 Unavailable：ミーティング内でリアクションを有効にすることはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities EndMeeting

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

このステータスは、Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング全体を終了できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース：Available/Unavailable

利用可能: ミーティング全体を終了することができます。 利用不可: ミーティング全体を終了することはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities HardMute

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

このステータスは、Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。

ミーティング内で「完全ミュート」を有効にできるかどうかを示します。 返される結果の値スペース：

Available/Unavailable/NotApplicable

利用可能: ミーティング内で「ハードミュート」を有効にできます。 利用できません: ミーティング内で

「ハードミュート」を有効にすることはできません。

該当なし: このミーティングには適用されません (例、オンプレミス SIP コール)

xStatus Conference Call[n] Capabilities IsModerator

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

このステータスは、Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング内でモデレーターの役割を持っているかどうかを示します。

返される結果の値の範囲：True/False

True : ミーティング内でモデレーターのロールを持っているかどうかを示します。

False : ミーティング内でモデレーターのロールを持っていません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities LockControl

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。

ミーティングをロックできるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Lock/Unlock/Unavailable

Lock : ミーティングをロックすることができます。 Unlock : ミーティングをロックすることはできません。

Unavailable : この機能はこのミーティングには適用されません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities LowerAllHands

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。 ミーティング中にすべての参加者の手を下げることができるかどうかを示します。

返される結果の値の範囲 :

Enabled/Disabled/NotApplicable

Enabled : ミーティング内ですべての参加者の手を下げることができます。 Disabled : ミーティング内ですべての参加者の手を下げることができません。 NotApplicable : この機能はこのミーティングには適用されません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities LowerParticipantsHand

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。 ミーティング中に任意の参加者の手を下げることができるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

有効/無効

Enabled : ミーティング中に任意の参加者の手を下げることができます。 Disabled : ミーティング中に任意の参加者の手を下げることができません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities MuteAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。 ミーティングですべての参加者をミュートできるかどうかを示します。

返される結果の値の範囲: Enabled/Disabled/NotApplicable

有効: ミーティング内のすべての参加者をミュートできます。 無効: ミーティングですべての参加者をミュートすることはできません。

NotApplicable: この機能はこのミーティングには適用されません (例、オンプレミス SIP 通話)。

xStatus Conference Call[n] Capabilities MuteOnEntry

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

このステータスは、Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。

ミーティングへの参加時にすべての参加者をミュートできるかどうかを示します。 返される結果の値の範囲:

Enabled/Disabled/NotApplicable

有効: ミーティングへの参加時にすべての参加者をミュートできます。 無効: ミーティングへの参加時にすべての参加者をミュートすることはできません。

NotApplicable : この機能はこのミーティングには適用されません (例: オンプレミス SIP 通話) 。

xStatus Conference Call[n] Capabilities ParticipantRequestUnmute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

このステータスは、Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。各参加者が自分でミュート解除を要求できるかどうかを示します。返される結果の値スペース:

有効/無効/該当なし

有効: ミーティングの各参加者は、各自でミュート解除をリクエストできます。Disabled: ミーティングの各参加者が自分でミュート解除することはできません。NotApplicable: この機能はこのミーティングには適用されません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities RaiseHand

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング中に挙手できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース: Available/Unavailable

利用可能: ミーティング中に挙手できます。利用できません: ミーティング中に挙手することはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities Reactions

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

このステータスは、Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング中にリアクションを送信できるかどうかを示します。

返される結果の値の範囲:

Available/Unavailable

Available: ミーティング中にリアクションを送信できます。Unavailable: ミーティング内でリアクションを送信することはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities Recording Pause

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング内で録画を一時停止できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

利用可能/利用不可

利用可能: ミーティング内で録画を一時停止できます。Unavailable : ミーティング内で録画を一時停止することはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities Recording Resume

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

このステータスは、Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング中に録画を再開できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

Available/Unavailable

利用可能: ミーティング内で録画を再開できます。Unavailable : ミーティング内で録画を再開することはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities Recording Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング中に録画を停止できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

利用可能/利用不可

利用可能: ミーティング内で録画を停止できます。Unavailable: ミーティング内で録画を停止することはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities TransferHostAndLeave

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。

ミーティング内で主催者の役割を別の参加者に転送できるかどうかを示します。返される結果の値スペース:

利用可能/利用不可

利用可能: ミーティング内で主催者の役割を別の参加者に転送することができます。利用不可: ミーティング内で主催者の役割を他の参加者に転送することはできません。

xStatus Conference Call[n] Capabilities UnmuteAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。ミーティング内ですべての参加者をミュート解除できるかどうかを示します。

返される結果の値の範囲: Enabled/Disabled/NotApplicable

利用可能: ミーティング内のすべての参加者*をミュート解除できます。Unavailable: ミーティングですべての参加者をミュート解除することはできません。

NotApplicable: この機能はこのミーティングには適用されません (つまり、オンプレミス SIP コール)。 (*以前適用された完全ミュートをすべて削除します。実際にはミュート解除されません。)

xStatus Conference Call[n] HardMuted

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。 ミーティング中にハードミュートになっているかどうかを表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

True: ミーティング内で完全にミュートされています。

False: ミーティング中に完全にミュートされていません。

xStatus Conference Call[n] Locked

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。

ミーティングがロックされているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

True: ミーティングはロックされています。

False: ミーティングはロックされていません。

xStatus Conference Call[n] RaiseHand

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

この状況は Webex ミーティングと Webex 最適化通話にのみ適用されます。 挙手したかどうかを示します。

返された結果の値の範囲: Raised/Lowered/Inactive

Raised: 現在、挙手しています。 Lowered: 現在、手を下げています。 Inactive: このステータスはこのミーティングに適用されません。

xStatus 電話会議 [n] 同時通訳 言語 [n] 言語コード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

同時通訳により、Webex ミーティングの参加者は、好みの言語でミーティングを聞くことができます。このステータスは、現在選択されている言語の言語コードを報告します。詳細については、Conference SimultaneousInterpretation Select Language コマンドを参照してください。

例:

```
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 1 LanguageCode: 24
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 1 LanguageName: "fr"
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 2 LanguageCode: 20
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 2 LanguageName: "en"
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 3 LanguageCode: 28
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 3 LanguageName: "de"
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 4 LanguageCode: 89
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 4 LanguageName: "es"
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation MixerLevel: 80
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation SelectedLanguage: 20
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Status: Active
```

xStatus Conference Call[n] SimultaneousInterpretation Languages[n] LanguageName

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、ユーザー

同時通訳により、Webex ミーティングの参加者は、好みの言語でミーティングを聞くことができます。このステータスは、現在選択されている言語の名前を報告します。詳細については、Conference SimultaneousInterpretation Select Language コマンドを参照してください。

例：

```
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 1 LanguageCode: 24
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 1 LanguageName: "fr"
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 2 LanguageCode: 20
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 2 LanguageName: "en"
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 3 LanguageCode: 28
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 3 LanguageName: "de"
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 4 LanguageCode: 89
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Languages 4 LanguageName: "es"
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation MixerLevel: 80
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation SelectedLanguage: 20
*s Conference Call 3 SimultaneousInterpretation Status: Active
```

xStatus Logging ExtendedLogging Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー 診断の拡張ログがオンかオフかを示します。

Valuespace: オン/オフ

xStatus Logging ExtendedLogging PacketDump

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

拡張ログの実行時にパケットデータが含まれるかどうかをレポートします。詳細およびパケットダンプについては、Logging ExtendedLogging Start and Stop コマンドを参照してください。

Valuespace: オン/オフ

- オフ: 拡張ログ中、パケットデータはキャプチャされません。
- On: 拡張ロギング中、パケットデータがキャプチャされ、別の .pcap ファイルに保存されます。

xStatus Logging ExtendedLogging RenderingDump

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー

拡張ログの実行時に、制限付きレンダリングのダンプが含まれているかどうかをレポートします。レンダリングダンプの詳細については、Logging ExtendedLogging Start and Stop コマンドを参照してください。

値スペース : オン/オフ

- Off : 詳細ログ中に限定的なレンダリングダンプがキャプチャされません。
- On : 詳細ロギング中に制限付きのレンダリングダンプが osd.log ファイルに書き込まれます。

xStatus MicrosoftTeams Software Version Authenticator

適用: Board Pro 55、Board Pro 75、Desk Pro、その他、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 Dual G2、Room 70 Single G2、Room Bar、Room Bar Pro

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

Microsoft Authenticator アプリケーションのバージョンを表示します。

*s MicrosoftTeams Software Version Authenticator: "6.2404.2229"

xStatus MicrosoftTeams Software Version MicrosoftIntune

適用対象 : Board Pro 55、Board Pro 75、Desk Pro、その他、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 Dual G2、Room 70 Single G2、Room Bar、Room Bar Pro

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

Microsoft Intune アプリケーションのバージョンを表示します。

*s MicrosoftTeams Software Version MicrosoftIntune: "24.03.6"

xStatus MicrosoftTeams Software VersionCode Authenticator

適用対象 : Board Pro 55、Board Pro 75、Desk Pro、その他、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 Dual G2、Room 70 Single G2、Room Bar、Room Bar Pro

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

Microsoft Authenticator アプリケーションのバージョンコードを表示します。

*s MicrosoftTeams Software VersionCode Authenticator: "202422293"

xStatus MicrosoftTeams Software VersionCode MicrosoftIntune

適用対象 : Board Pro 55、Board Pro 75、Desk Pro、その他、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 Dual G2、Room 70 Single G2、Room Bar、Room Bar Pro

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

Microsoft Intune アプリケーションのバージョンコードを表示します。

*s MicrosoftTeams Software VersionCode MicrosoftIntune: "240306260"

xStatus MicrosoftTeams Software Version OEMAgent

適用対象 : Board Pro 55、Board Pro 75、Desk Pro、その他、Codec EQ、Codec Pro、Room 70 Dual G2、Room 70 Single G2、Room Bar、Room Bar Pro

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

OEM エージェントのバージョンを表示します (オリジナル機器製造業者)

値スペース: 文字列

xStatus Network[n] IEEE8021X 理由

適用対象 : すべての製品 必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー 値の範囲 : 文字列

xStatus ネットワーク [n] IEEE8021X ステータス

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

値スペース: Associating/Connected/AuthFailed/Failed/Off/その他

xStatus センサー レーダー モード

適用対象: Board Pro 55、Board Pro 75、Board Pro G2

必要なユーザーロール : 管理者、ユーザー

デバイスがレーダ信号を送信しているかどうかを報告します。

Valuespace: オフ/モーション

オフ: デバイスはレーダー信号を送信しません。

Motion : デバイスは、デバイスの近くでの動きを検出するためのレーダ信号を送信します。

xStatus スタンバイレベル

適用先: Board Pro 55、Board Pro 75、Desk、Desk Mini、Codec EQ、Room Bar、Room Bar Pro

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

スタンバイモードにはいくつかのレベルがあり、それぞれが異なる電力消費プロファイルを提供します。

このステータスは、デバイスのスタンバイモードの現在のレベルを報告します。

返される結果の値の範囲：None/Standby/Networked/DisplayOff

- なし：デバイスはスタンバイモードではありません。
- DisplayOff：デバイスはスタンバイの第1段階で、ディスプレイオフモードです。
- Networked：デバイスはスタンバイの第2ステージであるネットワークスタンバイにあります。デバイスはまだネットワークを通じてアクセス可能です。
- Standby：将来の使用のため。

xStatus スタンバイ状態

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

デバイスがスタンバイモードかどうかを示します。

返される結果の値の範囲：Standby/EnteringStandby/Halfwake/Off

- スタンバイ：デバイスはスタンバイ状態です。
- EnteringStandby：デバイスはスタンバイ状態に入っています。
- ハーフウェイク：デバイスはハーフウェイク状態です。

Status UserInterface RemoteAccess Session[n] Name

適用対象：すべての製品 必要なユーザーロール：管理者、ユーザー 値の範囲：文字列

Status UserInterface RemoteAccess Session[n] State

適用対象：すべての製品

必要なユーザーロール：管理者、ユーザー 値の範囲：AccessRequested/Active

Status UserInterface WebView[n] ErrorDescription

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレーター、ユーザ 値スペース: 文字列

Status UserInterface WebView[n] ErrorType

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレーター、ユーザ

値の範囲: NoError/OutOfMemory/RenderProcessCrashed/CertificateError/ConnectionError/HttpError/DnsError/OtherError

Status UserInterface WebView[n] HttpResponseStatusCode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレーター、ユーザー 値の範囲: 整数

Status UserInterface Features Call AudioMute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレーター、タッチユーザー 値の範囲: Visible/Hidden

xStatus Video Input Connector [n] SignalState

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレーター、ユーザー

デバイスが指定された入力で入力信号を検出したかどうかを示します。返される結果の値の範囲:

NotFound/OK/Unknown/Unstable/Unsupported/DetectingFormat

NotFound : デバイスは入力信号を検出できません。通常、これはケーブルが接続されていない場合、または接続されたソースがビデオを出力しない場合です。

OK : デバイスは有効なビデオ入力信号を検出しました。信号形式のサポートは、Video Input Source n FormatStatus ステータスで報告されます。

Unstable : デバイスが不安定な信号を検出しました。これは通常、ケーブルに接続した後、ハードウェアがビデオ形式を検出する間の数秒間、このような状況が発生します。この値は、デバイスが信号形式を判断できない場合、または信号形式が一貫していない場合にも返されます。

DetectingFormat: デバイスは入力信号を検出し、その形式を検出中です。これは通常、接続信号検出の初期状態です。

例 :

xStatus ビデオ入力コネクタ 1 の信号状態

*s ビデオ入力コネクタ 1 の信号状態: OK

** 終了

